

伝統工芸に 独自の感性 織り交ぜて



関市で初めて国の重要無形文化財保持者「人間国宝」に認定された染織作家の土屋順紀さん（虹ヶ丘北）が市役所を訪問し、喜びの報告をしました。工芸技術「紋紗」で独自の技法を確立。市内などで採取した植物から染めた糸を使って自然豊かで繊細

な色を生み出し、新しい染織の可能性を追求しています。「関市の自然の中で生まれ育ったことで、感性が養われた」と重みのある言葉を話されました。市の文化水準を一段と向上させた「市民の誇り」の土屋さん。今後も磨きをかけて挑戦を続けます。

あんな事、こんな事



あか 幻想的に彩る灯り

ふるさと夏まつり同日、奈良県で10年にわたり行われている「燈花会」が関市でも行われました。燈花はろうそくの灯心の先にできる花形の塊のことで、これができると縁起がよいとされています。春日神社と千年町通りに、水を入れたカップの中にもろうそくを浮かべた燈花が1,000個並べられました。訪れた人々が幸せになるようにとの願いを込めて、ろうそく一つ一つに灯りがともされました。

夏本番のお楽しみは

提灯、屋台に盆踊り。そんな雰囲気誘われて、うちわを片手に浴衣姿で行き交う多くの人が恒例の「ふるさと夏まつり」を満喫しました。にぎやかな園児の鼓笛パレードに始まり、輪投げや金魚すくい、さまざまなゲームで祭り気分を盛り上げました。繰り広げられる祭りの姿は、市の夏の風物詩です。たくさんの子どもの笑顔が暑さを吹き飛ばしていました。





わが家で備えておくべきことは

親子で防災バス「あんしん号」に乗り、県広域防災センターで防災に関する体験をして、地震の怖さや備えへの大切さを理解する教室が開催されました。自分の住む環境や家族の様子がそれぞれ違うことから、地震への備えは一律ではありません。地震を体感した児童は驚きながらも、帰宅したら必ず家庭防災会議を開き、家族で話し合いをすることを全員で約束しました。

先人の造った橋をいつまでも

保戸島橋の改修工事が終わり、式典で地元の金竜小学校の児童と小金田保育園の園児が、校歌と鼓笛演奏で完成を祝いました。老朽化によって安全性が懸念され、上下流の橋の完成時には解体も検討されたこの橋は、「保戸島区にとってなくてはならない橋」という地元住民の強い熱意によって新たな門出を迎えることができました。この素晴らしい橋をいつまでも大切に使いましようと思いを誓いました。



“木”に入った材料を組み合わせて

今年度関市で開催される「全国子ども木の造形作品コンクール」にちなみ、板取小学校で「夏休み親子木の造形教室」が行われました。地元のNPO木つつ木倶楽部の指導のもと、いろいろな材料を使って、親子で思い思いの作品を楽しく作りました。出来上がった作品は、同コンクールに出品したり夏休みの作品展に出品したりする予定です。

武儀っ子の分身登場

武儀の「夏の風物詩」となっているかかしが今年も下之保上野の田んぼにお目見えしました。米作りに励んでいる武儀西小全校児童が地域の大人の指導を受けながら、十字にした木材にわらを巻きつけて体の芯を作り、資源回収で集めた洋服や帽子を着せてミナモやほもみんなどのかかし15体を完成させました。豊作の願いが込められた分身が、秋の収穫まで鳥害から稲を守ります。



こぼれ話



7月31日、市役所の幹部職員と関商工会議所建設部会の会員が中濃公設地方卸売市場の駐車場をぐるっと囲む植栽の下のわずかなスペースを利用して、秋野菜の栽培準備をしました。

これは「災害時緊急食材確保ボランティア」の取り組みの1つで、公共施設の美化清掃、職員の防災とボランティア意識の向上、市民との協働、緊急時の食材確保を目的としています。

これまで、休耕田を活用した防災農園を実施して

きましたが、このような狭い場所での野菜作りは初めてで、この日は客土と土留めの作業を実施しました。植栽されている木と木の間を2mほど掘り起こし、事前に堆肥を混ぜておいた作土を入れ、切り出した竹で土留めを作って、畑を21区画作りました。

8月27日の勤務終了後に種まき、植え付けを行い、11月から12月にかけて収穫をします。収穫までは、勤務時間外に各部が交替で水やりや草引きなどの栽培管理をします。収穫された野菜は保存用に加工処理をしたり、炊き出し訓練に使ったりする予定です。